

## 平成 26 年度第 1 回一関市水道事業経営審議会 会議録

1. 会議名 第 1 回一関市水道事業経営審議会

2. 開催日時 平成 26 年 12 月 16 日（火） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 40 分まで

3. 開催場所 なのはなプラザ 3 階 大会議室

4. 出席者

(1) 一関市水道事業経営審議会委員 13 名

阿部弘子委員、金野幸造委員、鈴木東委員、二階堂満委員、石川トシエ委員、  
及川豊委員、葛西切成委員、昆野洋子委員、齋藤祥三委員、三浦富久子委員、  
海野正之委員、江口扶委員、千葉淳委員

※欠席委員 3 名

鈴木美感子委員、千葉とき子委員、阿部節子委員

(2) 市出席者

勝部修市長、菅野佳弘上下水道部長、金田賢上下水道部次長兼水道部次長、那須  
野長己浄配水課長、玉澤俊一花泉支所建設水道課長、千葉幸司大東支所建設水道  
課長、千葉賢千厩支所建設水道課長、榊原勇東山建設水道課長、北條敏方室根支  
所建設水道課長、齋藤祐二川崎支所建設水道課長、小野寺教勉藤沢支所建設水道  
課長、水道部各係長、業務課員ほか

5. 審議事項

(1) 一関市水道事業経営審議会の設置について

(2) 審議会の開催スケジュールと経営統合に向けた行程

(3) 水道事業の現状と課題

(4) 平成 25 年 3 月厚生労働省策定・公表『新水道ビジョン』のあらまし

(5) 平成 21 年 3 月策定・公表『一関市水道ビジョン』に係る取り組み状況の確認

(6) 今後の論点について

6. 公開、非公開の別 公開

7. 傍聴者の数 2 名（報道機関）

8. 所管部署 水道部業務課

9. 会議の内容

## (1)市長あいさつ

水道料金審議会から水道事業経営審議会と名称を改め、委員の皆様には、引き続き審議をお願いしたいと思っている。

今年度、市内の8つの地域でそれぞれ異なっていた水道料金体系について、審議会からの答申をもとに、これを統一することになった。平成29年4月に統一するということが決まったところである。

今回は、水道事業全般について審議いただくということになっている。水道事業全般を見た場合に、やはり大きな課題があり、それは岩手県や一関市のみならず全国的な傾向でもあるが、人口減少が大きな共通の課題であり、人口減少によって、水道事業の収入が減少していく中で、どうやって事業を継続していくかという課題がある。また、老朽施設があるが、これからどんどん更新時期を迎える施設をどのように対応していくべきかという課題もある。

さらには、一関市固有の課題として、水道未普及地域に対する対応も進めていかなければならない。

一関市の水道事業は、このような課題を抱えているわけであるが、現在の水道ビジョンは、平成20年度に策定されたもので、これが策定された後に藤沢町との合併があった。それから東日本大震災における被災もあった。このように状況が大きく変わってきている。さらには、平成28年度には、水道事業と簡易水道の事業統合と大きな節目を迎えるわけである。そういった中で長期的な視点に立って、水道事業の安定性、継続性をしっかりと水道事業ビジョンの中に明記していかなければならない。

水道事業のマスタープランともいうべき水道事業ビジョンの中に今後の水道事業のあり方を示し事業に取り組んでいく必要があると認識している。委員の皆様にあつては、この水道事業経営審議会の中で忌憚のない発言をいただきたい。

## (2)会長、副会長の互選

会長に二階堂満氏を、副会長に千葉淳氏を選出した。

## (3)諮問

市長から審議会の会長に水道事業ビジョンの策定に関する諮問書を手交した。

## (4)審議

ア 一関市水道事業経営審議会の設置について

イ 審議会の開催スケジュールと経営統合に向けた行程

事務局からアイについて、資料に沿って一括して説明を行った。

委員から次の意見交換があった。

### ◆委員意見

水道事業ビジョンの計画期間は何年か。

### ◇市回答

計画期間についても、委員の皆様方に審議いただく内容になるが、国の資料では、50年後100年後を見据えて概ね10年間の計画ということになっている。

ウ 水道事業の現状と課題

エ 平成25年3月厚生労働省策定・公表『新水道ビジョン』のあらまし

オ 平成21年3月策定・公表『一関市水道ビジョン』に係る取り組み状況の確認

カ 今後の論点について

事務局からウエオカについて、資料に沿って一括して説明を行った。

委員から次の意見交換があった。

◇委員意見

全国的にも水道施設の老朽化が深刻な課題のようだが、一関市では何件くらいの配水管の漏水事故があるか。

◆市回答

週に3件程度だと認識している。

◇委員意見

漏水事故の対応は、各支所での対応なのか。

◆市回答

地域ごとに管理を行っているので、今現在にあつては各支所での対応となっている。

◇委員意見

火事の際に、消火栓等から水が出ないと聞いたことがあるが、それも水道の職員が駆けつけたりする水道部門の仕事なのか。

◆市回答

例えば地震などのときに根元の水道管が破損して消火栓から水が出なかったということがあったかもしれないが、消火栓や防火水槽の管理は消防部局で行っている。

◇委員意見

老朽化した配水管の更新は、どのような基準で行っているか。

◆市回答

明文の基準はない。現況に即した対応をしている。鉄管は布設後40年、塩ビ管は25年を基準にしているが、基準どおりに更新する財政的余裕がないため、漏水の頻度の多い管路を中心に更新している。

◇委員意見

漏水箇所調査は、どのくらいの精度があるか。

◆市回答

配水管網が大きくなると、区域を区切ってブロック化して調査を行うことに

なるが、それを実施しているのは一関地域の上水道のみ。規模が小さくなると、配水池から直接給水になるわけだが、配水管は地下を通っている関係で漏水がなかなかわかりにくい状況にある。一関の上水道は、毎年調査を行っているが、漏水量に対して概ね10%程度の発見となっている。漏水調査の方法は、各家庭を訪問して止水栓のところで漏水音を聞いたり、路上で漏水の音を感知する機械を設置して調査を行ったりしているが、大方は水が噴いた状態で漏水が発見される。

◇委員意見

水道水は福島原発に由来する放射能の調査は行っているか。

◆市回答

平成23年から放射能の調査を実施している。

次回の審議会で測定結果を資料でお示しする。

◇委員意見

資料の中に財政計画が示されているが、これができているのであれば、これから審議することがこの財政計画に制約を受けることになるのではないか。

◆市回答

この財政計画は、今後の人口減少などを見据えた見通しにすぎない。整備費も14億円と見込んでいるが、この内容が具体的に何かあるわけではない。今回の審議会で水道事業ビジョンができあがれば、それにあわせて財政計画を見直していくことになる。

午後3時40分閉会